

京都地域リハビリテーション シンポジウム 2019



「在宅医療を支える地域リハビリテーション」 ～地域包括ケアの観点から～

- 会長 武澤 信夫（京都府リハビリテーション支援センター）
- と き 2019年7月27日（土）14：30～17：45（受付：14:00～）
- と ころ 京都府立医大図書館ホール
- 会場費 1000円

座長：富田素子（京都博愛会病院）
大嶋孝司（京都リハビリテーション病院）

講演

1 現場で、リハパワーを活かす～一緒に考えましょう～

京都府医師会 副会長 北川 靖 氏

2 京都市域におけるリハビリテーションの地域連携

京都市域地域リハ支援センター 副センター長 清水 真弓 氏

3 地域包括ケアを支える地域リハビリテーション

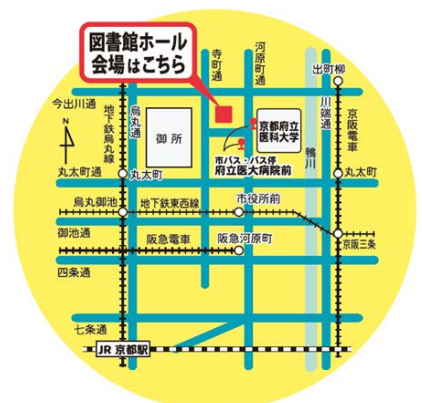
京都府リハ支援センター センター長 武澤 信夫 氏

総合討論

単 位 認 定：日本作業療法士協会生涯教育制度基礎コース：1ポイント

後 援 申 請 中：京都府医師会、京都府介護支援専門員会、京都府理学療法士会、
京都府作業療法士会、京都府言語聴覚士会、
京都府リハビリテーション三療法士会協議会

お問い合わせ：600-8876 京都市下京区西七条南中野町8 京都南病院リハ部気付
京都地域リハビリテーション研究会



京都地域リハビリテーションシンポジウム 2019

開催要領

2000年に介護保険が導入されましたが、その後も一層、少子化・高齢化・人口減少が進行し、働き手の減少という事態の中で介護人材の不足を迎えています。現在、全国的に地域共生社会の実現に向けて地域包括ケアシステムの構築が促進され、行政、医療、福祉、介護、教育などの新たな仕組みづくりが進行しています。

京都では、オール京都で京都府地域包括ケア推進機構がつくられ、認知症対策、地域リハビリテーション、看取り対策を3大プロジェクトとして位置づけられ、回復期リハビリテーション病棟や訪問リハビリテーションなどの供給体制の充実が図られてきました。

特に、認知症への取り組みでは市町村や地区医師会が共同して初期対応チームや認知症カフェがつけられ、認知症になっても住み続けられる地域コミュニティ・まちづくりが始まっています。そして、医療機関から退院後の在宅生活が安定的にできるように在宅医療介護連携が進められ、自立支援型のケアプランのために、ケアマネージャーと訪問診療や在宅リハビリテーションとの密な連携が求められています。

また、自立支援型の介護保険制度への転換を図るために、市町村が担う地域リハビリテーション活動として介護予防事業や地域ケア会議へのリハビリテーション専門職の参画が進められています。

今回、このような現状を踏まえて、地域包括ケアの観点からの在宅医療と地域リハビリテーションの連携の深化をはかるために、シンポジウムを開催します。

とき：2019年 7月27日（土）14：30～17：45

ところ：京都府立医科大学図書館ホール

主催：京都地域リハビリテーション研究会

参加費：1000円

テーマ：在宅医療を支える地域リハビリテーション～地域包括ケアの観点から～

座長：富田素子 先生（京都博愛会病院）

大嶋孝司 先生（京都リハビリテーション病院）

シンポジスト

北川 靖 先生（京都府医師会副会長）

武澤信夫 先生（京都府リハビリテーション支援センター）

清水真弓 先生（京都市域地域リハビリテーション支援センター・がくさい病院）

後援依頼：京都府医師会、PT士会、OT士会、ST士会、京都府介護専門支援員会、

京都府リハビリテーション三療法士会協議会

単位等：日本作業療法士会生涯教育制度基礎コース1ポイントに該当